

2019年6月5日

各位

2050年に向けた中長期環境ビジョン 「Environment Challenging Ono Vision (ECO VISION 2050)」を策定

小野薬品工業株式会社（本社：大阪市中央区、代表取締役：相良暁、以下、当社）は、このたび、2050年に向けた中長期環境ビジョン「Environment Challenging Ono Vision (ECO VISION 2050)」を策定しましたのでお知らせします。今後、策定した「ECO VISION 2050」のもと、環境負荷低減に向けた取り組みを推進していきます。

【ビジョン策定の背景】

近年、気候変動など地球環境課題が深刻化しており、2050年の未来では、水や食料の不足、新たな疾患の増加、自然災害の甚大化による生活の基盤の破壊など、さまざまな脅威が人々の健康で健全な生活を脅かすと予想されます。

「病気と苦痛に対する人間の闘いのために」という企業理念のもと、当社が、革新的な医薬品の創製によって、健康で健全な社会づくりを推進するためには、当社の事業活動が健全な地球環境に支えられて成り立っていることを認識し、環境課題の解決に向けた取り組みを強化することが重要です。それが環境に対する企業の責任であると同時に、持続的な事業活動の基盤構築にもつながると考えます。

人々が健康で健全な社会を迎えられるよう、当社は「ECO VISION 2050」のもと、2050年を見据えて環境負荷低減に向けて挑戦していきます。

【ビジョンの概要】

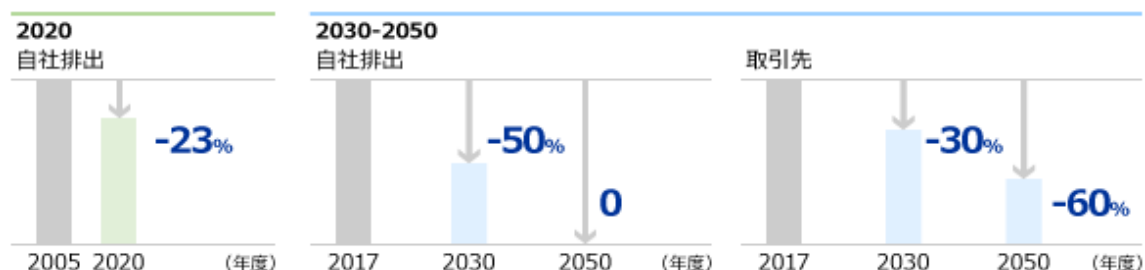


「ECO VISION 2050」とは、2050年を見据え、バックカastingで、今何が求められるかということを考えてるとともに、従来から掲げている小野薬品環境指針に基づいて策定しました。2050年の未来においても、革新的な医薬品の創製を通して、「健康で健全な社会づくり」に貢献する企業でありたいという当社の思いと、同時に「製薬業界における環境リーディングカンパニー」をめざすという思いを示しています。

【中長期目標】

「ECO VISION 2050」の実現に向けて、「低炭素社会の実現」、「水循環社会の実現」および「資源循環社会の実現」の3つを重点項目と定め、温室効果ガス、水使用量、廃棄物についての具体的な中長期目標を設定しました。

●温室効果ガス



※自社排出はスコープ1とスコープ2の合計値、取引先はスコープ3を表します。

●水使用量

2030年度に、水資源使用量（取水量）を生産数量原単位で15%削減する<2017年度比>。

●廃棄物

1. 産業廃棄物の最終処分量を毎年1%以下とする。(※)
※非リサイクル(=埋立・単純焼却)の割合を総量の1%以下とすることを、小野の「ゼロエミッション」の基準と定義する。
2. 2030年度に、産業廃棄物の排出量を生産数量原単位で15%削減する<2017年度比>。
3. 事業活動において、環境負荷低減を促進していく。

以上

<本件に関する問い合わせ>
小野薬品工業株式会社 広報部
TEL : 06-6263-5670
FAX : 06-6263-2950